



## 4階渡り廊下(・▽・)イイネ!!

休み時間や放課後に4階の渡り廊下に出ると気持ちのいい季節になりました。南アルプスの山々はいよいよ白くなり始め、中庭の樺は色づき、落ち葉も目立ちます。そして、その風景を眺めるように中庭のど真ん中に西高のシンボル「大空像」が両手を広げて空を仰いでいます。

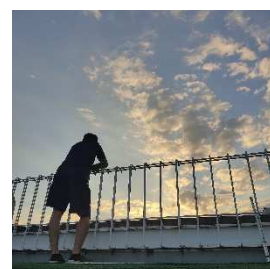
最近夕方5時にもなると薄暗くなってきてもう冬も近いなあと感じますが、そんな中でもダンス部は元気に踊っています。そして、北館の3年次の教室の明かりが一層目立つようになりました。渡り廊下から覗くと（本当は5組前の廊下からの方が見やすいですが）、多くの3年次生が一心不乱に受験勉強に励んでいる姿が見て取れます。この光景もこの時期の西高の風物詩となっています。

さて、その「4階渡り廊下」は「西高の学園生活の象徴」ではないかと思います。テレビの学園ドラマではよく学校の屋上が舞台になってストーリーが展開されます。西高の屋上は普段立ち入ることができないので、その代わりに4階渡り廊下ではないでしょうか。その証拠に鳳凰祭のブロックビデオでは4階渡り廊下が必ず登場してきます。この「4階渡り廊下」ですが、実は2年次生、3年次生になるとあまり通らなくなるんです。2、3年次生のHR教室は北館、南館ともに2、3階で、授業が行われる教室もほとんどが3階以下ですから、4階に足を運ぶこと自体が少なくなります。そんなベストポジションが身近にある1年次のうちに、ソーシャルディスタンスを保ちながら、仲間とともに（または一人でも）たそがれてみるのはいかがでしょうか。



←先日放課後に4階渡りへ行くと、1年次生女子3人が楽しそうにスマホで写真撮影をしていました。SNSに掲載するためのイケてる写真をたくさん撮っていました。（せっかくの写真、カラーでなくゴメン）

→その時、撮ってもらった私のたそがれ姿です(^\_^)  
1年次主任 平岩岳実



## ～11月行事予定～ 感染防止対策は怠らない！

日	曜日	A/B	予 定	日	曜日	A/B	予 定
1	月	A	きずなの日 冬服期間(~4/30)	16	火	A	
2	火	A		17	水	A	第4回マナーアップ運動
3	水		文化の日	18	木	A	
4	木	A		19	金	A	
5	金	A		20	土		県民の日
6	土		ベネッセ総合学力テスト	21	日		
7	日			22	月	行	第3回定期試験
8	月	B	履修本登録提出締切	23	火		勤労感謝の日
9	火	B		24	水	行	第3回定期試験
10	水	B		25	木	行	第3回定期試験
11	木	B		26	金	行	第3回定期試験
12	金	B	大掃除 校外清掃 冬季原付免許取得説明会	27	土		
13	土		土曜講座	28	日		
14	日			29	月	B	
15	月	A	第3回定期試験時間割発表 あいさつ運動(~19日)	30	火	B	

## 保護者の皆様へ

**規則正しい生活** 今月は前半にベネッセ模擬試験、後半に定期試験と大事な試験が続きます。西高生の中には勉強を頑張すぎて、体調を崩してしまう生徒も見受けられます。心身が健康であってこそ、学習成果が上がってくるものと思われますので、生活リズムを安定させるようご家庭でもサポートしていただけますようお願いいたします。

**2年次の履修本登録** 来年度の履修本登録締切が11月8日となっております。10月には国際バカロレア科目の体験授業や、担任との二者懇談などを行い、文系・理系のコース選択や国際バカロレアを含めた選択科目などおおよそ決定したかと思われます。今後は来年1月の三者懇談で最終確認を行い、履修内容が確定しますので、ご承知おきください。

◎先生方からの寄稿 今月は1組の担任 松田光司先生、副担任 大代章子先生です。

ジロウとサブロウに学ぶ。

松田 光司

生物講義室前の廊下で2匹のアズマヒキガエルを飼っています。大きい方の名前は「東二六（アズマジロウ）」。二年前の私の誕生日に、当時の二年六組の生徒がプレゼントしてくれたものです。もう1匹の小さい方の名前は「東三六（アズマサブロウ）」。三年六組の生徒がくれた…わけではなく、私が本栖湖で捕まえました。ちなみに、2匹ともメスです。

この2匹には人工飼料をあげていますが、カエルは対象の動きによってエサかどうかを認識しているので、カエルがエサと認識するように人工飼料を動かさないと食べてくれません。ジロウはちょっと動かすとすぐに反応し、上手に舌を伸ばして食べてくれます。それはもうパクパクとよく食べてくれます。しかし、同じアズマヒキガエルでも、サブロウの方はなかなか難しい。見極めがシビアで、見てはくれるけど食べてくれない。ようやく反応してくれても、舌ではなく口で食らいついてくる。ピンセットであげても、下に置いても、口だと弾いてしまい、うまく食べられないことが多い。ジロウに横取りされることもしばしば。飼育初期の頃は、「この子は大丈夫だろうか」と心配していました。ところがある日、生餌としてコオロギをあげたところ、ジロウよりも速く反応し正確に捕食。条件次第でサブロウも立派なハンターでした。カエルにもはっきり個体差があるのです。



カエルは待ち伏せ型で、エサを迫いかけて捕まえるのではなく、射程内に入ってきたエサに対して目にも止まらぬ速さで襲い掛かる。特にジロウ達アズマヒキガエルを見ていると、普段はとてもゆっくりとした動きで、「こんな動きでは自然界でも生きてはいけないだろう」と思ってしまう。しかし、アズマヒキガエルは厳しい自然界で今日まで生き抜き、種を存続させてきている。カエルにとっては、待ち伏せ型は全員共通。エサをあげている私からしたら、「もっと積極的に追いかけたらいいのに」と思うこともありますが、待ち伏せることは、カエルにとって最適な生き方なのでしょう。そこに個体差はありません。しかし、具体的なエサの取り方には個体差がある。舌を伸ばすのか、口で行くのか、どのような動きでエサだと認識するのか。環境、条件によってエサの取り方の「良さ」は変わります。厳しい自然界で種を残すために個体差という多様性が必要なのです。個体差には優劣はなく、いろいろあることに意味があります。ジロウに得意な状況、サブロウに得意な状況があるだけです。

アズマヒキガエルはなんと東京で大繁殖しているようです。人間社会はこれまでに経験したことのない複雑な社会が形成されようとしています。アズマヒキガエルが経験した東京の都市化に比べれば大したことではないのではないのでしょうか。個体差は生物が生き残るために作り出した戦略です。自己を知り、自分に適した戦略が取れているのか。ジロウ、サブロウにエサをあげながら、こんなことを考えました。

「タイトル未定」

大代 章子

↑は、間違えではありません(笑)。放送部にとって、魔の10月、連続する2つの大きな大会のうちの1つ芸文祭の締め切りがこの原稿と同じ頃にあり、先日作品が完成しました。取材対象はもちろん決まっていますが、どうすれば伝わるのか悩みながら編集し、最後に部員でタイトルをつけています。なので、直前までタイトルは未定のみです。

わたしにとってこの2年間は、ほぼすべての大会が直前までデータ審査になるのか、大会そのものが実施されるかと、いつもと違う状況で不安な気持ちでした。ある日、部員と話をしていたところ、部員たちは「私たちは、その状況しか経験していないので、今の状況が普通です。」とのこと。全員で活動できない期間や短時間での活動を、オンラインで会議をし、登校している人が何をすればよいかなどを話し合い、電話での取材も試みながらやり遂げました(矢嶋先生や細野先生にも大変お世話になりました)。新人戦や芸文祭などに向けてきっと多くの1年生が同じような経験をしたのだらうなと思い、西高生の頼もしさを改めて感じる事ができました。

そんな日々頑張っている人へ、中野信子さんの「こども脳科学」を紹介します。脳科学の観点から、わかりやすく、ストレスやイヤな気持ちをエネルギーに変えるヒントをもらえそうです。脳科学に興味のある人は、さらに専門的なものを読んでほしいと思います。最後に、放送部の番組作品は、西高生に視聴してもらえる機会が少ないのが少し残念なところです。締め切り直前の、真っ暗な4階渡り廊下でいったい何を撮影していたのか？何を取材し、タイトルは結局どうなのか？気になる人は、ぜひ、北館3階視聴覚器具庫までお越しください。

